

鍼灸学科

3つのポリシー

卒業認定の方針(ディプロマ・ポリシー)

鍼灸学科では、鍼灸師として人々の心身の健康を支え、医療・スポーツ・美容等の分野において専門職として社会に貢献できるような人材の育成を目指します。本学科において所定の単位を修得し、以下の資質・能力を修得したと認められる者に卒業を認定します。

1. 医療、スポーツや美容等の分野において、患者（クライアント）の状態を適切に評価し、その状況に応じた施術を計画・実施できる専門的知識および実践的スキルを修得している。
2. 鍼灸師として必要な職業倫理および医療人としての責任を理解し、自らが関わる全ての人に対して誠実かつ適切に対応できる態度・人間性を備えている。
3. 鍼灸臨床において遭遇する課題を主体的に探究し、科学的根拠に基づいて解決を図ろうとする姿勢を有し、自己研鑽を継続できる能力を身につけている。

〈卒業の認定〉

本学科に3年以上在籍し、本学が定める教育課程において所定の単位を修得した者について、卒業審査を経て学校長が卒業を認定します。

所定の単位数：96単位

卒業審査にあたっては、次に掲げる3項目に基づき、学科長が判定します。

1. 履修時間の出席率

授業科目ごとの出席時間数が履修時間数の3分の2に満たない者、および実習の出席時間数が履修時間数の5分の4に満たない者は、履修の認定をしないこととする。

2. 授業科目ごとの学業成績

3. 実習先施設の評価

なお、卒業の認定は最終学年修了時に行います。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

鍼灸学科では卒業認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、鍼灸臨床において必要な知識・技術・人間性（価値観・倫理観）を身につけるカリキュラムを開講します。

1年次（基礎）

東西医療の基礎知識や鍼灸の基礎技術を養う。人体の構造と仕組みを理解するために解剖学や生理学を学ぶとともに、経絡経穴概論や東洋医学概論を通して東洋医学的生体観を身につける。また、はり・きゅうの基本操作を習得しながら、医療概論や職業倫理において鍼灸師として備えるべき価値観・倫理観

を知り、理解する。

2年次（応用）

東西医療の専門知識・鍼灸の応用技術を養う。病理学概論、臨床医学総論・各論や東洋医学臨床論を学び、病気や障害のメカニズムを理解すると共に西洋医学的評価法（検査法等）や東洋医学的診察法（証立て）、さらには選穴法を修得する。またスポーツ現場や治療院での実習を通して、鍼灸師として備えるべき価値観や言動に対する意識を高め、医療人にふさわしい人間性を育てる。

3年次（実践）

鍼灸臨床における総合的かつ実践的能力を養う。臨床実習では、指導教員（または臨床実習指導者）の監督・指導のもと、患者やアスリートの状態を的確に評価し、その結果に基づいて施術方針を立案し、安全かつ適切なはり・きゅう施術を実践する力を養う。また、症例検討を通して、臨床上の課題を主体的に分析し、東西医学の理論および科学的根拠に基づいて考察する能力を身につける。さらに、医療人としての倫理観、責任感、コミュニケーション能力を実践の場で涵養するとともに、生涯にわたり自己研鑽を継続する姿勢を確立する。加えて、模擬試験および対策授業を通じて国家試験合格に必要な知識の総合的整理と定着を図る。

入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)

鍼灸学科では本校の建学の精神である「履正不畏・勤労愛好・報本反始」を元に、次のような能力、意欲や適性を備えた入学者を求めます。

1. 『履正不畏』“医療人にふさわしい”価値観に基づいた行動を選択できる勇気を持ち、自らが正しいと信じることを実践できる行動力が大切です。その第一歩として社会の中で模範的な言動を示せることが必要である。
2. 『勤労愛好』治療家として、より高度で、より効果的な治療を提供するために、自ら問題提起し、そして解決にむけて努力できる意欲が基礎となる。まずは資格取得に向けて、自発的に考え、行動できることが求められる。
3. 『報本反始』鍼灸師は患者と信頼関係を築きながら社会的背景や心理状態なども把握することで患者の抱える悩みを解決する職業である。そのためには他人への感謝の気持ちを忘れず、豊かなコミュニケーション力で何事にも誠実に対応できる人間性が必要である。